



月刊宮司プレス第二百二十二号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和六年十一月三十日

◇宮司の柴田です。 参道の西側の紅葉や境内

の神池西側にある桜もようやく、あざやかな

きれない

紅にそまりました。 昨今は、気温も高く秋

の訪れが遅れているようです。 二年くらいま

えのテレビで、気象予報士の、「この五十年で紅

葉が二週間遅れた。 五十年後は十二月、やが

てクリスマスになるかも」という衝撃的なコメ

ントを耳にしたことがあります。 現実味を帯

びてきたのではないかと思わせるような天候

です。

◇さて、紅葉とは、秋に葉が紅に変わる事であ

り、また、その紅に変わった葉の事です。 ど

のようにして、葉が、紅に変わるかご存知です

か。 平成二十二年十一月に発行した宮司プレ

ス五十四号にも詳述していますが、実は、葉

の細胞の中のアントシアンが増して、葉緑素

が、分解するために起こります。 「カエデ」

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和六年十一月三十日

や「ウルシ」や「ツタ」など、境内の桜もそう

です。 黄葉は、黄色に変わる葉の事で、これ

も葉緑素が分解して、黄色色素(カロテノイド)

が、残るために起こります。 「イチヨウ」が

そうです。 この紅葉の事を「もみじ(紅葉)」

といいます。 平安時代までは、「黄葉」と書い

て「モミチ」と清音(だくてんのない事)で読

ませていました。 平安時代以降に、「紅葉」

と書いて「もみじ」と、にごって読ませたよう

です。

◇過日の十一月二十三日は、新嘗祭を御奉

仕申し上げました。 この日は、天皇陛下

が、天神地祇に新穀をお供えされて、天皇

陛下が親しく、お食べになるという祭儀で

す。 古くは、旧暦の十一月の卯の日に行

われていましたが、近時は、十一月二十三

日となり、戦後、勤労感謝の日となったの

です。 そのような経緯から、昔の人は、

新嘗祭が終わってから、新米をいただいで

いました。 もうすでに流通されていて食

べてしまった方もいるかと思いますが、日

本人として忘れてはならないことのように

に思います。 一生の間に、お米を一度も

口にすることなく生涯を閉じる人もいま

ました。 ですから、米粒をお釈迦様の骨に

みたてて、「銀舍利」といって大切にしたの

です。 さらに、米一粒に七柱の神様が宿

っていらつしやるといわれています。 米

一升、何粒あると思いますか。 実は、六

四、八九七粒です。 「六四八九七、むし

やくな」と覚えておきたいものです。 私

共は、生涯、どれだけの神様の恵みをいた

だいているか、感謝してもしきれないので

す。 そのような思いで、感謝の誠を捧げ

ようと厳修させていただきます。 余談になりますが、午後四時の齋行で、祭典後に総代会の開催を予定していたこと

から、準備に追われ、着装（正服に着替えることです）したのが、開始十五分前、少し慌てたせいかわ、単（白衣の上から身につける朱色の衣です）の襟がきちんとなっていないませんでした。赤色の袍と朱の単、これはまさしく、紅葉襲なのですが、残念でした、反省する事しかりです。

◇「祈りは欲を浄化する」、神職初任の頃に先達神職から諭された言葉です。祈りと聞くと、願い事と思っていませんか。祈りと願い事は似ているようで大きく違います。祈りの語源は、斎（心身を清める）

に「宣る」と言われています。精進潔斎、

身も心も清らかにして神様に祈願申し上げる事です。したがって、祈りは、どこまでも、神様や大自然人々に対する感謝と賛美です。感謝状、受領書、表彰状を

奉るのです。したがって、「お祈りをする代わりに、こういう成果をください」と

いう、神様に見積書、挙句に請求書をお出しするようないことはしてはいけません。さらに、「神様が願いを聞いてくれないからこうなった」と、あるうことか、神様を訴えるなど、あつてはならないのです。

◇神社神道の信仰の三本柱は、一つは、神様大自然を大切に、二つめは、人々のつながりを大事にする、そして、三つめは、前向きに人生を楽しむです。まさしく、神様、大自然、人々、この三つの絆の大切さを確認し、意識するのが、「祈りは欲を浄化する」ということではないかと思えます。御自愛ください。

◇十一月の祭典行事報告(予定も含む)

▼月次祭

◆本宮

\*十一月一日、十五日

◆貴布祢神社

\*十一月一日

◆明治祭 \*十一月三日

◆衣更 \*十一月七日

◆朝粥会 \*十一月二十一日

◆新嘗祭 \*十一月二十三日



◆六連島八幡宮新嘗祭 \*十一月二十五日

◇十一月宮司動静

▼神社関係団体

◆早起会参拝 \*十一月一日

◆維蘇志会役員会 \*十一月七日

▼神社庁関係

◆神社庁下関支部大麻頒布始祭

\*十一月五日

◆大美支部大麻頒布始祭\*十一月七日

◆神社庁教化委員会 \*十一月十一日

◆中国地区教化会議(オンライン)

\*十一月十一日

◆同和問題宗教者連帯会議研修

\*十一月十三日

◆支部五社会(赤間神宮・住吉神社・忌宮神社・亀山八幡宮・当宮) \*十一月十五日

◆小熊野神社例祭 \*十一月十八日

◆全国教化会議(東京、神社本庁にて開催)

\*十一月二十八日、二十九日

▼自治会、学校関係、その他

◆迫町自治会役員会 \*十一月二十日

◆人権擁護委員会研修 \*十一月二十一日

◆西中国信用金庫総代会 \*十一月二十一日

◆人権擁護委員人権相談 \*十一月二十六日

◆迫町自治会ウォーキング \*十一月三十日